世界風俗往來

全

特70
76

027349-000-3

特70-76

世界風俗往来

薇陽 陳人／撰

M5

ADJ-0104

特70
76

明治五年壬申夏新鐫

世界風俗往來

井上氏藏版

鈴木家藏

山崎蔵書

序

夫運推開。人爭磨智識於世界。當此時譯書之務急矣。而從前其書。或繁或偏之一覽以了盡大要者。童

蒙之士憾焉。今此書略括全世界地理風俗政體收之一小冊子中。無所謂繁與偏之患。而便於童蒙者非耶。且書字足以為臨池者之模範。則用亦多矣。若夫撰著之體裁。固不暇擇此蓋作者之意也。

明治壬申春三月

薇陽陳人撰

荊邨處士歡書

明治壬申春日

擊子九寓

荊邨逸士歡題

五人種圖

歐羅巴人種

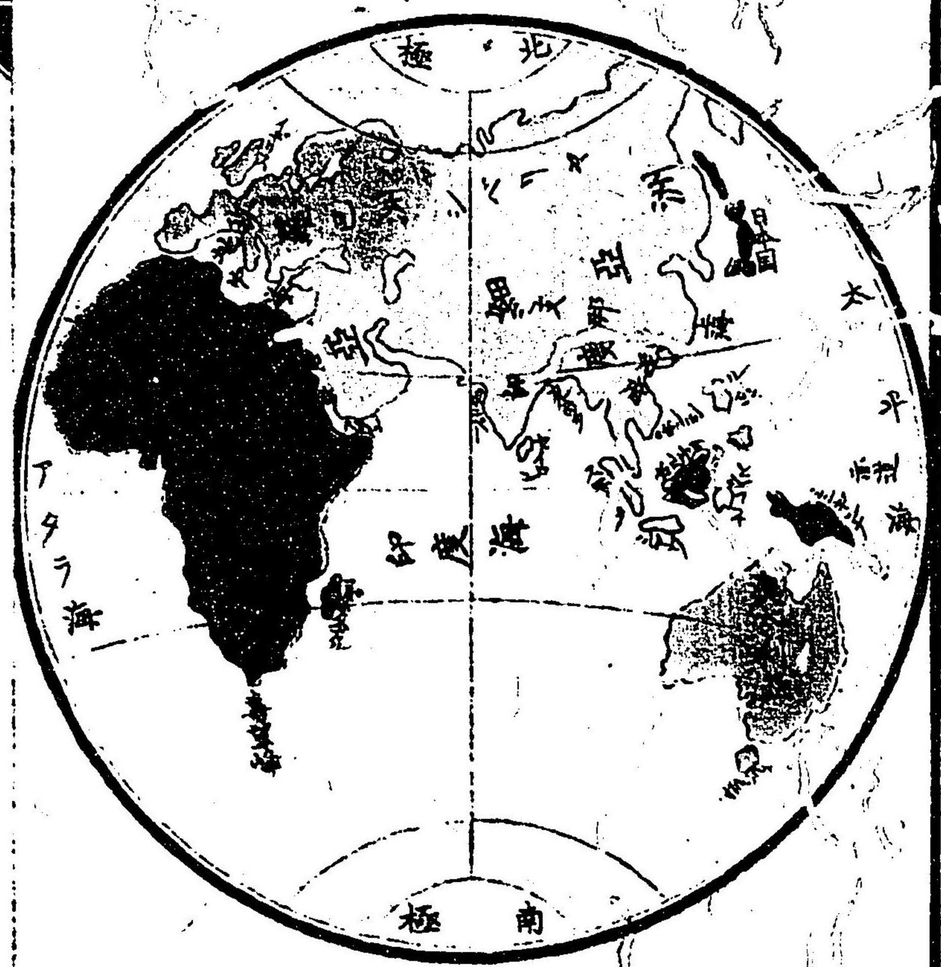
メレイ人種

亞細亞人種

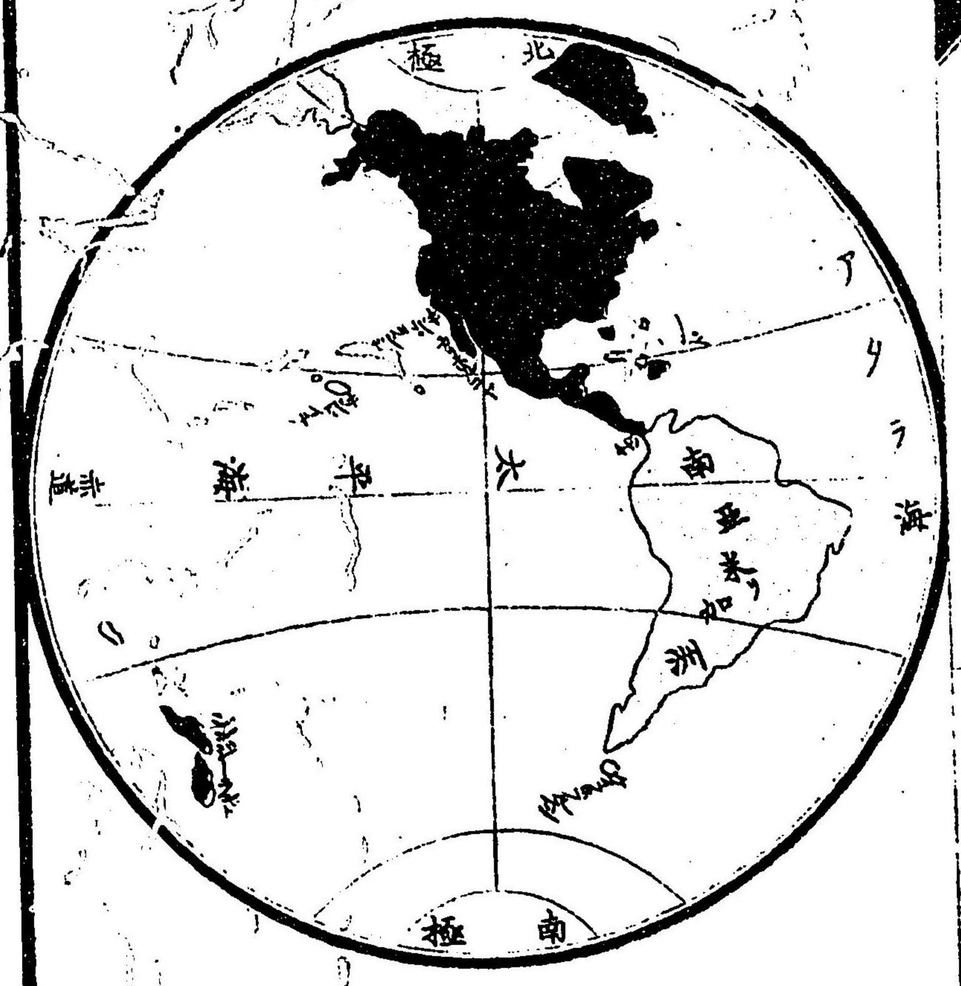
アメリカ土人種

アフリカ人種

東半球



西半球



世界風俗往来

大世界國々風俗異同改事

の得失を尋ね
て僧乃又よ起
し難し先其大

略伐者迷子
地球乃表面
二千二百零七

等九千四百方里
餘陸地部分
海は陸の

三倍程也其地
を五海分割亞
細亞五非利加

政庭邑南小
西米利加墺地
利亞東亞細

亞亞一百九十二
萬八千五百方
里餘我

日本は其東
邊猥立ちたる一の
島國なり亜

非利加百九
十七萬三千
六百里餘亜米

利如二百四十
三萬四千七百
八十方里餘歟

羅已付六十二
萬九千八百八
十方里餘奥

地利亜七万六千
七百里餘
是乃五

大海中法國
三億五千八百面
積を有す

六神中天竺度の
異同是等差
のよりて生産乃

多少人口の寡
富あり小角下
大なる者也

米八人口六億五千二百萬餘石
米利加七千

第餘四億
八二億六百
万餘石米利加

七萬八百万餘。

懊地利五六二万

百万餘也地氣

殊ことに物変り。

人倫種類五

種より分れ白色

黄色黒色褐色
色銅色鉄色の
其資性異れ

言語文字も
様々。八百餘
種也。

独逸。英吉利。佛郎西。日耳曼。伊太利亞

茅利支語は最廣く通用せ開化して國程まで

語の他邦に及ぶ、理あり且又諸宗の教義

許多あるべし耶

蘇者そ政羅

巴に過ぎず其中

故乃高祖
あらしきふたそと

多也太古
たをたかこ

猶大國
なほたいこく

行也礼
ゆくなれ

一程好宗
ひとほどしう

狂大義と
くるうたいぎと

唱く今
とふいま

聖雄
せいゆう

巴亜米利加に
信崇とたとえば
あるべきなり

回教を亜細亞。
印度遊乃諸
島まで行きます。

七月乃神祭
終ル家ノ内ノ
ヒ度ヲ那。

五穀利加豊米
利加の内地塊地
利益。西国の法

爲未だ開けざ
る地を行きたる
者にとの教誨

誕人情を遠
く害ふものとす
其外釋教

とゝ幸福を求
又現後の冥
福を希ひ常

に高妙乃理
哉淡び印度
支那彫像

廣東。儒教孔子ノ教ニ我邦ニ傳ル。

教ヲ主ムル人政律ヲ掌ル。

心ヲ維持ス

要用なる者なれ
ども動もすれば
俗に所謂者

佛尊とのみ
あるを宗
旨とし張り扇民

を偽せむ。

其教を仰ぐ

準ハ大抵次固

天然の

知識を持ち

教化を妨

そよ吾。扨また人民平生こゝ衣食保生乃

道も其土地に由て同しからず。

赤道下の地方

八月の道人
たそ
遠くして耕
さく
作漁猟
きよ
りう
成務
つと

四時草
くさ
木
き
実
み
を
くち
ひ
腊
しだ
魏
ろ
のまつり

世を過ぐるに
帯び地を果
実を付けば

色猟を好て
川がりに
出ては獣
皮を取て衣類

小家一穴を穿て家と為す。湯帶地ハ紙俵

よく大和を豊饒乃國多く自然井化の進

農耕を
業とし器械
を作り人力を
助け漸々物産
を開き増し衣
食足りて禮文

砂漠多
また
き
こころ
ゝ耕作
さくさう
すくなく
ゝ成
なり
牛を牧
うし
ぼくす
ゝ成業
なりぎやう
とせる
夫萬國
そればんこく
改體
あらためたい

乃遍列し様々
事柄など是を約
元々五類となる

其一は君主
左系元八累
代相受け獨

その権柄を執り、生殺與奪、その意に任せ、

政を議ずるに、行ふ事一手に出づ。鬼角上

みハ各握手。

志ゝ一徑和

乃賀ひよて下々

去朝ゝ高ゝ

屈服せゝ其二

ゝ去ゝ國古ゝ

法律或
まさに
古より國天くに
權
けん
權
いきほひ
大機際
たいきさい
際
きわ

限
げん
あり
そもそも
て
軍
ぐん
事
じ
も
れう
簡
けん
略
りゃく
事
だい
と
なす
ものあり

その一方を改せ

府君その君主

の国のうみ

の宰ども

下にして地の得

失を議とる事

成ばまた其

三ヶ国の国王

家臣閥閲累代

交るゝ政権を

坐一定し君

主家恐ども

貴族一族政を

新有し平民を屈伏せしめ害解を一君

專權と同日の論なり故に

三種乃政體

は開化を疎き
國々を存ずるなり
また高ぶる

國君臣下を
御するに權あれ
ども公明正大

第國普通の
國憲を立て
平民たるとも

その主張加はり
國家の權は
天も之を

理屈勝つ不
と雖も故に
百事備はり

し敵雖已
に能はざるこの
政教を用ひ

たゝ東。五
月は一。宮乃君
長哉。設けば。

豪族平民を
論ぜず。人望
あ東す徳の人

撰一年
限を定めて大
統領とまた衆

民も元より其
國政に参與せ
亜米利加合衆

國是亦是。

最高政体

れかけ

といふべし。

小の一体の如

きて今を距

ること一二百年

前の項より。英吉利。佛蘭西。日耳曼などの

有識大家の創めて論議(かんがくていいおもに)せしところ

近年是
故稱拳法
事と成り
凡二十五
法を立て
て行ふ。宮
同名分五法

天下之議
論を設け君
主重官士民

少も是義討
論し第民入
ヘて主物部

外紙屋一人
を筆ぐ但行法
八天長一人是を

決疑一同法
官八語を聴き
獄或部ごその

一切に
愛憎
意を施す

主簿に
任乃相
き逆の

とはやけ

谷を
のぼり
乃ち
夫國に
入る

五寺
の
野に
たちぬ

支那もまたその如き古今有識賢人續々輩出して文學技藝も最も早く開けたれど

御ゑ人衆

ゑ一向古よりも

及ばざるとの

人物りゑ定て

時運進めて

人部屋に

進ぜ、天理
を考へ、人を教へ、
業を勤め、精
を尽す。

を練り、頑
迷を改め、
善業本の門地

我邦を士族
官祿を世襲
しなどの國より

外を強く
夫秋と鳴へ
自負を高ぶる

やまぶし一遍に
古風を源とし
善用乃虚飾

の上に
下乃情ハ日々
隔ゑ政情乃

親切なるより自然と國
力も亦衰弱せり

若し一暴君一
旦死せば全
國その惨毒を

蒙り懇ろ変を
く終ひ元國を
滅ちは外ちの

陸奥國ハ中古よ
り支那以学を

用ひ来たるまで。

御一新の後。

州開化の政體

を教へ一時

を重り修業

して新利乃

政治施行然
至和之氣運
に遊ぶ世民童

左傳

勿論時下略
五穀物の風
俗を雜言其

長ぶに及んで
博く歴史を就て
其の

遠を考へその
經を道を傳へ
上は邦家の

為す者を起

下は自己の

為す其責任

保ちは天理

主宰あるまで

万物を

3800
2

36036

中屋正衛氏を悼き田辺乃布古

購入
衆議院
13.1.20
圖書館

西洋画引節用集

初篇出板
二篇三篇
後篇出来

ようえぴきちゅうしゅう

此書は平生用の事物を集め洋字を記し其音と義を附し童子に晩りやすくし人の
いとめ一く圖画を設く加之早見出のため色いろは四
十七文字にて其数を区別つ便へを為す
石宮の類をめるとあるとハたぐ工 [角ノ部]
を出し搜らバ [石ミ Stone.] [家ヤ House.] めを宮むべ
しまこ旗の数をえんと欲バ [旗ノ部] の [幾ヲ ぐ.]

をゆゝしく余くこれを筆にして知るべし然ばこの語を知ることこの本に勝るものなし且多く奇異なる事ゝこれバまて產物に通極めあり

通俗英吉利會話篇

第一篇既刻
次篇追刻

此書ハ英國今ノ語の尤も粧密なる者ふて宝と曖々申たる夏ぞ日と生産の接播より商業或ハ別離見聞等の重なる物其訳名は泛ひ一篇ゝ其ゝ篇其ゝ中に其事物の名を掲字下面日ゝ中に訳を加へ文の綜文ゝ一二を以て反り紙付て師を求めずして獨り彼國人と今語ふべく至極用便の書ゝ

和漢西洋書物所
大阪
南大組第七區
心齋橋筋壹丁目
大野木市兵衛